

一言メモ

福岡堰

福岡堰（ふくおかぜき）は、つくばみらい市北山にある小貝川にかかる堰。岡堰、豊田堰とともに関東三大堰の一つで、茨城観光100選・茨城百景・疏水百選にも選定されています。

小貝川と堰の間を流れる用水の堤には、1.8km、約550本もの桜（ソメイヨシノ）が並び、春には堤に咲き誇る桜のトンネルが見事で、桜の名所となっています。

元和年間の新田開発に伴い、1625年（寛永2年）に関東郡代伊奈忠治により、灌漑用水として建設された堰である。当初は山田沼堰と呼ばれ、1722年（享保7年）に福岡地内（現在の北山）に改設し、福岡堰となった。1886年（明治19年）に木造、1923年（大正12年）に鉄筋コンクリートに改築し、小貝川の流量増大と老朽化のため、1971年（昭和46年）に再度改築。貯水量は275万+で、現在も下流域の水田の用水源となっている。



伊奈神社(伊奈忠治)

谷原領開発の祖、伊奈半十郎忠治公を祭神として昭和16年に創設された神社です。伊奈忠次・忠治親子は水害の多かった鬼怒川と小貝川を分離させ、谷原領一帯を干拓しました。

寛永元年（1624）から新田開発を行い、「谷原三万石」といわれる美田の開発を完成させました。その新田用水の供給源として山田沼に堰が作られました。

その後、堰は下流の福岡地区に移され福岡堰となり、現在もつくばみらい市の農業に重要な役割を果たしています。江戸初期における利根川東遷事業の多くが忠治の業績であり、鬼怒川と小貝川の分流工事や下総国、常陸国一帯の堤防工事などを担当した。

なお、この業績を称えて忠治を祀った伊奈神社が、福岡堰（現在の茨城県つくばみらい市北山）の北東、つくばみらい市福岡にある。また、合併してつくばみらい市となった旧筑波郡伊奈町の町名は忠治に由来する。父の忠次も埼玉県北足立郡伊奈町の町名の由来となっており、親子2代で地名の由来となった珍しい例である。

光明院

天海（てんかい）和尚によって再興、とありますが、上野の寛永寺を開山した「あの」天海和尚です。当寺は寛永寺の末寺にあたり、庫裏にはそれを示す天海和尚の書（写し）も飾られていました。

寛永寺といわれてもピンとこないかもしれませんが、幕末に徳川慶喜が謹慎した場所と言ったらどうでしょう。慶喜は鳥羽伏見の戦いで錦に御旗が翻ると、逆賊になることを恐れて江戸城に帰還。そして絶対恭順の意志を示すため寛永寺で謹慎したのでした。

三代将軍・家光が開基で四代将軍・家綱の霊廟が造影されてから徳川家の菩提寺となりました。徳川に大変ゆかりの深い寺院の末寺ということですね。

東国花の寺の11番です。代表的な花は4月下旬～5月上旬に開花するツツジです。

光明院は江戸城の鬼門（北東）にあたることから、江戸城を守護する鬼門除けとしての意味もあったとか。本堂が西向きなのはそのせいですね。

さほど古さを感じさせませんが、彫刻を見るとなかなか年季が入っていますね。少々色あせていますが、龍も虎も見事な造りです。

本堂や境内のあちこちに葵紋が見えました。やっぱり徳川のお寺ですね！

